自由民権記念館だより

自由のともしび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL. 76
2014 March

- 第３回収蔵資料展「市民からの贈りもの」
- 高知城周辺「民権史跡マップ」
- 学校教育連携事業「社会科自由研究作品展」報告
- 資料紹介：「国会寿語録」

第3回 収蔵資料展
市民からの贈りもの

市民の皆様から寄贈・寄託いただいた多くの資料より
土佐史を物語る資料や民権家徳弘馬域郎資料など展示。

平成26年
3月21日(金)－9月28日(日)
午前9時30分～午後5時
休館日／月曜日・祝日の翌日（土・日・祝日は開館）
会場／2階特別展示室

記念講演会
「民権家 徳弘馬域郎が残したもの」
4月29日(火・祝日) 15:00～17:00
講師／公文 豪 氏（高知近代史研究会長）
会場／研修室　入場無料
共催:自由民権記念館友の会

●リレーエッセイ

開館25周年を目前にして

本館は、１９９０年に高知市制１００周年を記念して建設されたので、２０１５年には25周年を迎えます。『要覧』を見ると、「よくぞここまでがんばってきた」の感があります。資料の収集・整理・保存・展示という基本的作業はもとより、全国から著名な研究者をお招きし講演会を開催しています。年に2回ペースで大型展示もしています。『紀要』の内容も高い水準が維持されています。

一見何の問題も無いようですが、この間に問題は山積しています。予算的にも人員的にも厳しい状況にあります。そして何よりも自由民権に興味を示す若者が激減しました。その結果、民権ファンも研究者も高齢化してしまいました。あと10年もすれば自由民権運動のメッカといわれる高知にもかかわらず、自由民権運動のことを知らない市民・県民ばかりになってしまいそうです。

自由民権運動に興味の無い人が増えているのは、高知だけの現象ではなく全国的傾向です。なぜそうした状態に陥ったのかという分析は、あちこちでなされています。それでもその傾向をストップさせる特効薬はなさそうです。しかし、はっきりしていることは、民権家たちが、時には生命を賭して主張した主権・人権・平和を今ほど本気で考えなければならない時代は無いということです。25周年を目前にしてこうしたことを改めて考えています。

高知市立自由民権記念館館長　松岡　僖一

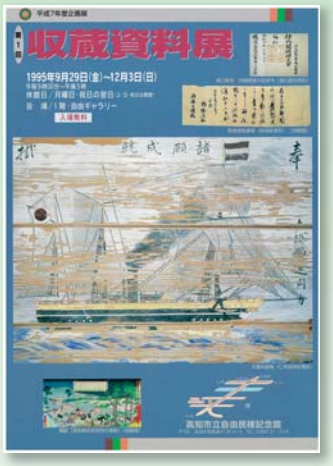
企画展

第3回収蔵資料展 市民からの贈りもの

自由民権記念館は一九九〇（平成二）年四月の開館後、自由民権運動資料だけでなく、土佐の近代や土佐出身者に関する資料を幅広く収集してきました。

これらの資料の大半は、資料が公的機関で保存、公開されることを希望された市民の皆様から、当館に寄贈や寄託をしていただいたものです。

資料は調査研究に提供するとともに、展示や館報等を通じてできるだけ紹介するように努めてきましたが、展示テーマやスペースの関係で、紹介できていないものもたくさんありますので、収蔵資料展を開催しています。



第1回収蔵資料展チラシ

過去の収蔵資料展

これまで当館では収蔵資料展を二回開催しました。

第一回は一九九五（平成七）年で約百四十点、第二回は二〇〇三（平成十五）年で、約百八十点を展示しました。

そこで、今回は第三回収蔵資料展として主に二〇〇三（平成十五）年以降に収蔵した資料を紹介します。また、スペースの関係で期間中展示資料の入れ替えを予定しています。

第2回収蔵資料展チラシ

展示資料から

焼印「民権自由　板垣退助先生」

自由民権運動を代表する資料の一つに、県内個人所蔵の「自由主義」の焼印があり、当館は複製を展示しています。

本資料も、自由民権の息吹を伝える恰好の資料といえるでしょう。このような焼印が多くの種類つくられることは考えにくいでしょうから、これは大変貴重なものです。

制作のいきさつや年代は不明ですが、自由民権運動期には「板垣退助君」という表記が多いので、「板垣退助先生」は後の時代かもしれません。

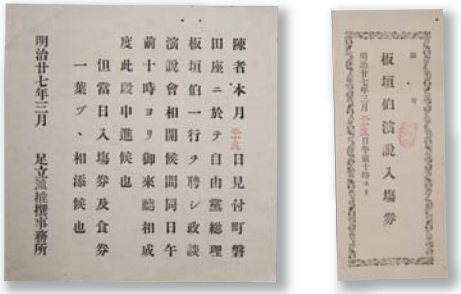
焼印「民権自由　板垣退助先生」

「板垣伯演説入場券」演説会案内状

一八九四（明治二七）年三月一日第三回衆議院総選挙が行われ、三月二五日、静岡県第五区から立候補し当選した足立孫六の地元では、自由党総理板垣退助を招いて政談演説会が開催されました。

『自由党々報』によれば、三月二四日、板垣総理は江原素六、足立孫六等と新橋停車場を発し、静岡に宿泊、翌早朝静岡を発し、八時四十分中原停車場に到着、大歓迎を受け、磐田座の演説会に臨み、板垣総理は第五席に登壇「輿論政治」と題して一時間半余の演説を行い、その後の懇親会も非常の盛会であった、とあります。

当時、大変盛んであった政談演説会ですが、入場券のように直接関係する資料は、植木枝盛が登壇した演説会の「通券」が知られているくらいであり、これも大変貴重な資料です。



板垣退助演説入場券、演説会案内状

民権家　徳弘馬域郎資料

自由民権記念館には民権家のご子孫などから、資料がまとまって寄贈・寄託されることもあります。二〇一二（平成二四）年度末で、それらは三一件になり、資料点数は整理済みで約四万点となっていますが、未整理資料もたくさん残っています。これからも未整理資料の整理を続けながら、目録や展示などで、順次紹介していきたいと考えます。

二〇〇七（平成十九）年には、民権家・徳弘馬域郎のご子孫から数百点の資料が寄託されました。

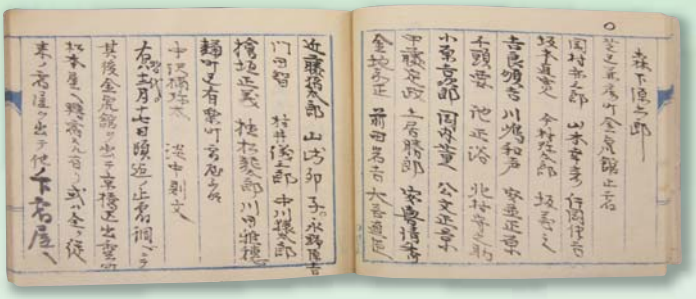
今回の企画展では、徳弘が残した資料の中から、特に興味深い資料を紹介します。

三大事件建白運動上京時の「手扣」

一八八七（明治二〇）年三大事件建白運動で、朝倉村総代として上京した金地嘉正の手帳。各県から東京に集結した総代、壮士は、元老院や政府高官の私邸などに請願するなどの運動を繰り広げました。

この手帳では、十二月一日に浦戸港を出雲丸で出帆し、五日に新橋駅に到着し金虎館に宿泊したことや、政府高官の住所、実際の訪問先やその様子、高知県から上京した総代たちの宿泊所などが記されています。

当事者の記録として、極めて珍しい資料と考えられます。



「手扣」金虎館に宿泊した高知県の総代

徳弘は、土佐郡潮江村に生まれ、妻に板垣退助の姪、三吉（みき）を迎えています。

潮江にあった発陽社に所属し、同社雑誌局が発行した『江南新誌』社主をつとめ、立志社の遊説員として政談演説会で盛んに演説をしています。さらに、力役自由党の幹事などで活動し、三大事件建白運動では潮江村人民二八〇人の総代として上京しましたが保安条例のため入京できず帰県しました。

明治二〇年代も、土佐民権派の中で活動していましたが、その後、朝鮮に渡り同地で没しています。

徳弘馬域郎
1904（明治37）年釜山で撮影

「発陽社規則」

発陽社は潮江にあった立志社傘下の有力な民権結社で、北川貞彦、宮地茂春らの民権家が所属していました。

発陽社は河野広中の甥、広躰など福島県の青年を受け入れたことが特徴です。彼らは後に加波山事件に連座します。

また、政談演説会開催だけでなく独自に雑誌『江南新誌』を発行するなどその力量を示しています。

この規則は「明治十二年第三月廿三日以降施行」したもので、第一条「同志相集リ学術ヲ研磨討論演説等ナシ或ハ事業ヲ開キ自主富強ノ基ヲ起スヘシ」と目的が掲げられ、当時の結社の意気込みを知ることができます。

発陽社規則

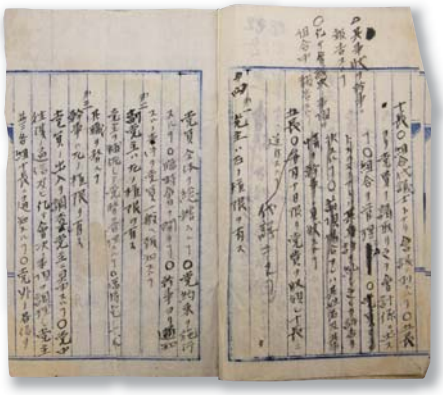
「力役自由党規則」

一八八二（明治十五）年五月結成された海南自由党に呼応して県下各地に自由党系の組織が設立されました。

力役自由党は「腕に覚えの車夫連中が発起となりて」結成されたもので、医者が中心となった刀圭自由党などと並び、職能別の自由党組織として注目されます。

力役自由党は社員三〇〇名を擁し、仁井田の旗奪いや、新聞の葬式参列などの足跡を残しました。

この規則は推敲の跡があり検討中のものかと思われますが、党組織、党首、副党首、幹事、会計係の権限を規定して、組織のあり方を伝えています。



力役自由党規則

③板垣退助像

場所：高知市丸の内（高知城登り口）

1923（大正12）年に建立された銅像(本山白雲作)は軍需資材として供出、現在の像は1956（昭和31）年再建(浜口重威作)。右手をまっすぐ突き出して演説している像である。現在全国に6つの板垣像(岐阜公園、国会議事堂内、青梅、日光、憲政記念館、高知城)がある。

④致道館並陶冶学校跡碑

場所：高知市丸の内（城西公園南東詰・県武道館前）

1862（文久2）年4月、吉田東洋によって藩校文武館が開設され、1865（慶応元）年致道館と改称された。馬場辰猪、中江兆民、植木枝盛など多くの民権家が少年時代にここで学んだ。明治になると陶冶学校（高知師範学校の前身）が置かれた。

⑤開成館の門

場所：高知市城北町（小津高校正門横）

1866（慶応2）年、後藤象二郎が中心になり、土佐藩の殖産興業・富国強兵を進めるため開設。山内容堂がアーネスト・サトウと会談。西郷・木戸・大久保と板垣・福岡が会談。1874（明治7）年には立志社・立志学舎創立。門は1940（昭和15）年海南中学校（現小津高校）に移築。

取り壊し前の旧邸

⑥植木枝盛旧邸跡碑

場所：高知市桜馬場（植木枝盛旧邸跡）

1878(明治11)年、植木枝盛一家は土佐郡井口村中須賀(現高知市)からここに転居。この家の書斎で多くの政治文書が執筆された。特に「東洋大日本国々憲案」は、現在の憲法制定の際参考に供されたことで有名。書斎は高知市立自由民権記念館に移築復元されている。

⑦嶽洋社跡碑

場所：高知市上町（第四小学校正門横）

愛身社(中須賀キレト南)と方円社(本丁筋2丁目)が合して南嶽社(水通5丁目)となり、一歩社(小高坂)と溟鵬社(公園)と拡権社(本丁筋)が合して南洋社(大川筋)となり、南嶽社と南洋社が合して嶽洋社(北奉公人町2丁目)となった。

⑧婦人参政権発祥之地

場所：高知市上町（第四小学校正門横）

1880(明治13)年、上町町会は女戸主の選挙権・被選挙権を認める「町会規則」を作り、北垣国道県令の裁定を仰いだ。県令は女性参政権条項の修正を指令して町会と対立。町会の執拗な運動に県令は沈黙し、日本最初の女性参政権が実現。1884(明治17)年まで存続。

①一円正興記念碑

場所：高知市本町（高知市役所玄関前）

1848（嘉永元）年8月8日、土佐郡万々村（高知市）生まれ。維新後、御親兵、立志社の一等発起人、修立社社長。1889（明治22）年高知市の誕生と共に初代市長に選出され、17年間在職。当時の市の人口は3万1107人。

②片岡健吉像

場所：高知市丸の内（県議会議事堂前）

1879（明治12）年高知県議会初代議長、のち衆議院議員、衆議院議長に就任。片岡の銅像は、板垣や坂本龍馬の銅像より早い1916（大正5）年に建立（本山白雲作）されたが、軍需資材として供出され、現在の像は1963（昭和38）年再建（浜口重威作）

⑫後藤象二郎生誕地跡碑

場所：高知市与力町（天神橋北詰・土佐教会前）

土佐藩の改革者吉田東洋は義叔父。吉田の富国強兵路線を継ぎ九反田に開成館を開設。藩主山内容堂と連署して大政奉還建白書を提出。板垣とともに自由民権運動に主要な位置を占める。近所に1歳年上の乾（板垣）退助、5歳年下の片岡健吉がいる。

⑪片岡健吉生誕地跡碑

場所：高知市本町（板垣邸の 80mほど東隣）

片岡は、板垣たちと一緒に立志社を設立し、二度にわたり政府に建白書・請願書を提出する総代になるなど、常に自由民権運動の中心に位置した。後にキリスト教の洗礼を受け、同志社の社長、また国会議員となり、衆議院議長となった。

⑩板垣退助生誕地跡碑

場所：高知市本町（高野寺前）

明治になって板垣は萩町新田に移り、1876(明治9)年頃、立志学舎が九反田の旧開成館からこの邸に移ってきた。教員を慶応義塾から迎え、英学を中心とし、「関西の慶応義塾」と呼称され、多くの民権家を輩出した。その門は、比島の龍乗院の山門となっている。

⑨馬場辰猪生誕地跡碑

場所：高知市升形（称名寺前）

文武館、慶応義塾で学び、その後イギリスに留学。帰国後自由民権運動の幹部として活躍。1882(明治15)年創刊の『自由新聞』主筆。板垣洋行問題で板垣と対立し、自由党を離脱。1885(明治18)年「爆発物取締規則」違反で投獄されたが証拠不十分で釈放。後に渡米。

第14回社会科自由研究作品展報告

前期　平成26年1月18日(土)～2月2日(日)
後期　2月4日(火)～2月20日(木)

平成26年1月18日から2月20日まで会期を前期・後期に分けて、第14回社会科自由研究作品展を高知市教育研究会社会科部会との共催で開催しました。

この作品展は、当館開館10周年を記念して始まり、今年で14回目となります。今回も「歴史」「環境」「地理・文化」など全8分野に数々の力作が出品されました。

応募点数は、小学校36校、中学校1校から、合計266点でした。

当館と社会科部会の先生方による厳正な審査も行われ、応募作品の中から41点を特別賞に選定しました。

2月2日（日）には表彰式を開催し、受賞者やご家族の方約160名にご参加いただき、アトラクションも行いました。

受賞作品のうち、自由民権記念館特別賞を下表でご紹介します。

なお、期間中は約950名の方にご観覧いただきました。

ありがとうございました。

表彰式の後の記念撮影

インタビューを受ける受賞者も

「鏡野吹奏楽団サクソフォーンカルテット」による演奏

自由民権記念館特別賞

作品名	作者	講評
海の汚れと漂流物について	秦小学校5年　仲田　桜介	〔講評〕自分の夢（漁師になりたい）と海が汚されていることを重ね怒りやつらさを率直に述べ、そして現状を直視している姿が作品に反映されています。熱を感じる作品です。
「風立ちぬ」を見て	昭和小学校4年　森岡　拓斗	〔講評〕映画のセリフから調べてみようとするものを見つけ、実際に博物館にしらべに行ったのは、すばらしいです。また、ひいじいちゃんに聞いた戦争の恐ろしさもていねいにまとめています。研究の最後に「戦争はぜっ対にしてはいけない」と自分のこととして思いが書けています。
路線バスの旅	泉野小学校5年　土居　智輝	〔講評〕すごいの一言です。自分の足で調べた内容に感動しました。時間もかかったでしょう。この内容から、どんなことが高知県は言えるのかな。自分の思ったことや高知県の交通の特徴を書けばもっとすばらしいことだと思います。でもすごい!!
宇宙NEWS	高須小学校5年　吉森　莉緒	〔講評〕新聞で読んだことをさらに自分で調べて、いろいろなことがわかりましたね。これからも興味のあることや気になったことはどんどん自分で調べてみてください。
完全天日塩つくりと塩調べ	高知大学教育学部附属小学校3年　大西　弘晃	〔講評〕作り方だけでなく効果や語源など幅広く体験や調べなどができて、よくまとめられています。
熱中症と救急搬送	小高坂小学校4年　津江　透仁	〔講評〕自分の将来の夢から着眼し、熱中症による救急搬送についてよくまとめています。聞き取りやグラフを使って、分かったこともしっかりまとめています。この研究を通して、ますます救急隊員になろうという気持ちが高まったと思います。将来が楽しみです。
高知城	第六小学校2年　関　爽花	〔講評〕身近にある高知城を実際にたずね、それぞれの場所の特ちょうや気づきをまとめられています。山内家宝物資料館の資料を使っての活動も夏休みの自由研究らしく良いですね。
土佐幕末維新	朝倉第二小学校6年　山本　瑛介	〔講評〕昨年の（作品）「吉田東洋」から興味を持った人物についてくわしく調べ、分かりやすくまとめることができています。実際にその場所に行き、その時代、その人物の思いを感じたことでしょう。山本君の絵は、とてもあたたかくて、ステキですね。これからも歴史をどんどん調べていってね。

資料紹介

国会寿語録

国会寿語録は、一八九一（明治二十四）年一月三日付『雷新聞』第一七二号の付録となった絵双六である。一八八一（同十四）年の国会開設の詔勅を「振出し」として、一八九〇（同二十三）年の帝国議会の開催という「上り」を目指すもので、その間の事件を描いたマスが時系列に沿って渦巻状にならんでいる。

『雷新聞』は自由党の機関紙の一つであった『絵入自由新聞』と『かみなり新聞』が合併して一八八九（同二十二）年に創刊した新聞である。そのような民権派の新聞であったことや発行時には第一議会が会期中であったこと、さらに新年号であったことなどから、この国会寿語録が付録としてつけられたとみられる。

国会寿語録には二九のマスがあり、絵は複数の絵師によって描かれている。ここで扱われている事件は、板垣退助遭難事件・壬午事変（以上、一八八二年）・伊藤内閣成立（八五年）・保安条例（八七年）・磐梯山噴火（八八年）・憲法発布・大隈重信遭難事件（以上、八九年）・第一回衆議院議員選挙（九〇年）などである。まさに歴史的事件ばかりであるが、その間に「絵入自由新聞の産声」「絵入自由雷となる」など、自らの新聞に関するマスも挿入されている。また、「福島事件」「埼玉群馬の一揆」などの激化事件や憲法発布による「大赦令」のマスがあったり、「保安条例」のマスに「ふりだしへもどる」という指示があったりするところは民権派の新聞の付録ならではといえよう。

なお、自由民権記念館の常設展示室には、この国会寿語録のすべてのマスが順番にパネル展示されている。入館の際にはぜひご覧いただきたい。

民権家人物録

杉田　定一
（1851～1929）

嘉永四（一八五一）年、越前国坂井郡波鶉村波寄（現福井県福井市）で生まれる。幼名は鶴吉郎、のちに定一と改め、「鶉山」と号す。

越前で学問を修めていた定一は、明治時代になって大阪や東京で洋学を学ぶ。そして、明治八（一八七五）年に再度東京へ出て、『采風新聞』への投書活動をおこなうようになる（のちに記者となる）。これが政治活動のはじまりとなるが、翌年には筆禍事件を起こし、禁固六ヵ月という処罰を受ける。しかし、その後も東京で反政府系の言論機関での活動を続けた。

同十（一八七七）年、この年起こった西南戦争に呼応して政府転覆を図ろうと、東北遊説、次いで西南遊説に向かう。この遊説の目的は果たせなかったものの、西南遊説のときに高知の板垣退助を訪ね、その後は高知にとどまって自由民権運動に参加する。翌年の立志社による愛国社再興運動では、安岡道太郎とともに各地を回って遊説するなどの役割を果たし、大阪での愛国社再興大会にも参加した。

同十二（一八七九）年に帰郷し、自宅の酒倉を改造して学習結社の「自郷学舎」、民権結社の「自郷社」をそれぞれ立ち上げ、自らは社長となった。自郷社は同年の愛国社第三回大会に代表を派遣し、加盟が認められた。また、このころ定一は、越前での地租軽減運動の指導者として減租を勝ち取り、その功績を称えた顕彰碑が現在もこっている。

同十三（一八八〇）年の愛国社第四回大会で結成された国会期成同盟において、定一は国会願望書審査委員などの役職に選任された。そして、同年の「国会ヲ開設スルノ允可ヲ上願スル書」には「石川県越前国国会願望有志総代」として名を連ねている。

同二十三（一八九〇）年の第一回衆議院議員選挙では福井県から当選し、以後は同四十一（一九〇八）年の第一〇回総選挙にいたるまで、計九回の当選を果たしている。同三十九（一九〇六）年には片岡健吉の後を継いで衆議院議長にもなったが、同四十四（一九一一）年には貴族院議員に勅選され、転身している。また、この間には地元福井の振興にも尽力し、三国鉄道の敷設（現在は廃線）、九頭竜川などの河川改修工事、県下の絹織物業の発展などを手がけた。特に九頭竜川の工事については私財の一部を投入するなど、積極的に推進した。

出身地である福井市には生家跡がある。かつての杉田家は越前でも有数の豪農であったが、定一の政治活動によって家財を失い、当時のものとしては門の痕跡がのこるのみである。自らの財産を投げ出して国事に奔走する政治家を「井戸堀政治家」というが、定一はまさにその典型であった。この生家跡の裏山に杉田家の墓所がある。ここには家族の墓とともに、頭山満揮毫による「鶉山杉田定一墓」が建っている。

自由のともしび（Vol.60から）がホームページでご覧いただけます。
ホームページアドレス　http://www.i-minken.jp/

常設展示　Q&A
- 17 -

Q 明治 14 年、板垣退助は東北遊説に出かけましたが、なぜ東北という地を選んだのですか？

A 当時の『高知新聞』の記事によると、目的は
①東北の実況を視察し、親しくしこの地の有志者に接し自由主義について談話する
②戊辰戦争で亡くなった諸士の霊魂を弔う
③先年、林有造、大江卓等の諸士が投獄され、東北に幽在するためと書かれています。

また、「板垣は自由民権の泰斗として全国の信望を一身にあつめており、一大政党の創立と東北遊説の名目で 8 月 26 日に高知を出発した。このことは、各地の同士を感激させ、より一層自由民権運動は盛り上がりをみせる。また、板垣の入京を機会に、先ず東京の政談社、交詢社などの諸団体を団結させようとする動きもあった。」といった内容が書かれた書物もあります。

参考：『高知新聞』明治14年 8 月28日（第174号）
『史伝板垣退助』（綾屋寿雄著）

講演会のご案内

第73回高知近代史研究会
演題「昭和期の馬政と高知競馬」

講師　長山　昌広
（高知県競馬組合競走馬診療所長）

日時　平成26年３月22日（土）
15:00～17:00

会場　自由民権記念館１階研修室

入場無料　どなたでも自由に参加できます。

企画展記念講演会
演題「民権家　徳弘馬域郎が残したもの」

講師　公文　豪
（高知近代史研究会長）

日時　平成26年4月29日（火・祝日）
15:00～17:00

会場　自由民権記念館１階研修室

入場無料　どなたでも自由に参加できます。

自由民権記念館友の会講演会と合同で開催します。

新刊情報

自由民権記念館出版物
○『常設展示の案内』
（2014年2月発行　頒価1,200円）

2011年の植木枝盛書斎移築にともなう常設展示リニューアル後の新版図録！

高知市史出版物
○『地方都市の暮らしとしあわせ
高知市史　民俗編』
（2014年3月発行　頒価1,000円）

困窮する地方都市をノスタルジックに復元する「再生」ではなく、新たに蘇らせる「新生」の可能性を探るアバンギャルドな民俗学！

消費税率変更に伴うお知らせ

会場使用料が変更になります

区分＼時間		午前9時から正午まで	午後1時から午後5時まで	午後6時から午後9時まで	全　日
自由ギャラリー	全　室	円 6,620	円 8,820	円 6,620	円 19,860
	西　室	3,800	5,070	3,800	11,400
	東　室	2,800	3,740	2,800	8,420
民権ホール		10,080	13,440	10,080	30,240
研修室		3,880	5,190	3,880	11,660
庭園その他の施設		32,470 円以内で市長が定める額			

（含消費税）

観覧料は変更ありません

【個人】
一　般　320円
（18才以上、ただし高校生を除く）
【団体】
20人以上 1人につき
250円

長寿手帳所持者並びに療育手帳及び身体障害者手帳所持者とその介護者 1名、自由民権記念館友の会会員については無料。
（受付で手帳、または会員証をご提示下さい。）

（含消費税）

平成26年4月から消費税が5%から8%になることに伴い、自由民権記念館の会場使用料も変更されます。
皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

詳しくは自由民権記念館　☎088－831－3336までお問い合わせください。

自由帳から

■これまで自身がなにげなくつけていた知識がひっくり返るくらい、本当の自由民権運動を知れました。
„1人1人が学び考えることが、めぐりめぐって国のためになるんだ“ということ、まさにこれは今必要なことじゃないですか。
自身の過ごしていた世界の狭さを思い知りました。
（京都）

■高知の姉妹都市、北見から来ました。
たくさんのことを学びました！また来ます！
（北海道）

■自由民権運動に関して知りたかったので、ここまで来ました。そして感じました。今の日本が自由になったのは民権家達の成果であり、また幕末の志士でもある。だから今の日本人は彼らに対して「感謝」をしなければならない。また我々はこのような歴史があった事を後世に伝えるべきである。
（奈良）

多くの方々にご来館・ご記帳いただきました。ありがとうございました。

時代の郷（とき　さと）
自由民権記念館
自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI
自由民権記念館だより　vol.76
発　行　2014(平成 26)年３月 15 日　発行人　松岡僖一
発行所　〒780-8010 高知市桟橋通４丁目 14-3 TEL.088-831-3336 FAX.088-831-3306